



「家康は、むし歯に悩んでいたのだろうか？」

高輪会は現在、約600の介護施設で、約1万人の患者様を、訪問診療しています。

医業とは、病を治し、心を癒し、人に愛されること。その為に、人間を学び、社会を学び、健康の“有り難さ”を学ぶのも歯科医の勤です。

戦国の日本を二つにまとめ、260年の平和国家の扉を開いた徳川家康。

彼の偉業の秘訣は健康にありました。

そして、いつもメディカル・コンサルタントの曲直瀬道三に医療のあり方を学んでいたのです。

全ての健康は、“歯の学び”から始まる。

高輪会は、訪問診療という新しい歯科医療の仕組みで、社会貢献を目指します。



0120-648-714

医療法人社団 高輪会 www.takanawakai.or.jp



「これからの「歯科」の話をしよう」 〜今を生き延びるための口腔の哲学〜

現在全国に6万を超える歯科診療所があり、歯科医師過剰と言われて久しいですが、65歳以上の高齢者においては、外来通院ができず、実際に歯科医療を受けられている割合は2・4%と、需要と供給体制にかなり乖離があることが課題となっています。そこで、ご自宅や入居施設に直接お伺いし治療を行う、訪問歯科診療が重要になってきます。

団塊の世代が75歳以上となる2025年には、およそ5・5人に1人が75歳以上の高齢者となるのに加え、認知症の高齢者の割合や単独世帯・夫婦だけの世帯の割合が増加していくと予想されています。国は在宅医療や在宅介護の体制整備を急ピッチで進めており、医師などの医療職や介護福祉士などの介護職らとの多職種協働による協議等に歯科専門職が参加することで、食べる・話すなど生きる上で根源的な役割を担うお口の健康を通じて患者様のQOL向上に寄与する、重要な役割を果たせるものと思います。

また、昨今のコロナ禍で、歯科医療を取り巻く環境も日々変化しています。歯周病等の重症化予防や定期健診の中断は患者様の全身状態にも影響を与えるリスクがあります。訪問歯科診療が行われない期間が長期化すれば、在宅・施設における療養者や要介護者の口腔衛生や口腔機能が低下し、要介護度が上がり、誤嚥性肺炎等による入院拡大防止にも貢献できる可能性を秘めています。

高輪会では現在、全国約1万4千名の患者様に対して訪問歯科診療を行っており、2023年には訪問歯科診療をスタートして30周年を迎えます。今後高齢化が進む我が国において、パイオニアとして責任を持ち、訪問歯科診療のリーダーとして、今まで以上に皆様の健康増進の手助けができればと思います。

新型コロナウイルス感染症に対しても、歯科医師をはじめとするスタッフ一同、感染症対策を徹底して訪問歯科診療に従事しており、安全確保に努めておりますので、ご安心ください。訪問歯科診療をご希望の際はもちろん、不安な点やご不明点などございましたら、ぜひお気軽にご連絡いただければと思います。



成平 恭一 Kyoichi Narihira
医療法人社団 高輪会 理事 本部歯科医師、口腔外科認定医、臨床研修指導医、ICD(インфекション・コントロール・ドクター)
八王子歯科の管理者を務める傍ら、法人内の歯科医師や歯科衛生士への臨症的な指導、教育を行っている。また、院内感染対策や医療安全に関する施策立案・実行、企業向けセミナーなどの新規事業へも参画している。